

浮魚調査と2017年の海況

道東地域では6月は雨の多い肌寒い天候が続きましたが、7月に入り例年より気温の高い日が多くなり、霧も少なく、人にとっては「過ごしやすい快適な天候」となりました。一方、漁業関係者にとっては快適な天候より風時化、漁海況が気になります。近年漁獲量が減少しているサンマやスルメイカに代わり、魚種交代でマイワシの漁獲が増えて行くのか、暖水塊は来るのか、今年の浮魚類の資源状態、道東沖への来遊状況や海況が例年以上に注目されています。

【浮魚調査】

釧路水産試験場では、道東沖の浮魚類の来遊状況や資源状態をいち早く把握するため、試験調査船北辰丸や金星丸により各種の漁獲調査を行っています。今年度は、5月下旬からのサバ・イワシ漁場調査に始まり、6月中旬にイカ類北上期調査、6月下旬にマサバ、マイワシ漁期前調査、7月上旬から道南、道東太平洋スルメイカ資源調査とサンマ北上期調査を実施してきました。



図1 出港する北辰丸

【結果の広報】

調査結果は「浮魚ニュース」等、インターネットで速やかにお知らせするほか、各地の説明会や講演会で、説明する機会も数多くあります。なかでも道東では各種漁業の開始日に合わせて、サンマ漁見通しに関する説明会開催の要望が多く、関心の高さが伺われます。7月に3回、8月には4回の講演が予定されており、担当者は乗船調査や結果とりまとめの合間を縫ってスケジュールを調整し、各地を飛び回っています（図2）。



図2 説明会の様子 右は説明会の後、報道関係者に囲まれて質問を受けている講演者

速報性を重視するため、「[浮魚ニュース](#)」では水試調査船で実施した調査結果を中心に掲載しています。その調査結果は浮魚資源全体の「ほんの」一部分の結果ですので、「浮魚ニュース」だけでは、分かりにくいことも多くあります。説明会では調査船調査の結果だけでなく、国や他の自治体研究機関の調査結果も利用・引用しながら、情報量を増やして全体を分かりやすく説明するようにしています。

説明会参加者は水産現場のプロフェッショナルばかりで、回答に困る難しい質問を頂くこともあります。しかしそんな質問が、試験研究をさらに進めるヒントや、新たな研究課題を立ち上げるきっかけとなる、大変貴重な機会にもなりますので、質問は大歓迎です。

【2017年の海況】

さて、図3に6月下旬の道東沖 100m 深水温分布図（気象庁提供）を示しました。昨年と比べると2017年は道東の近くに暖水塊がなく、道東沿岸は 100m 深5℃以下の低温な親潮に北東から南西にかけて覆われています。40° 30' N 147° 30' E 付近の暖水の動きには今後注意が必要ですが、昨年のように暖水塊の接近によって、道東沿岸の水温が深いところ（およそ 100m 以深）まで極端な高温となることはなさそうです。浮魚類にとって「過ごしやすい快適な道東の海」となっており、あとは来遊を待つばかりです。気になる直近の浮魚類の調査結果は[こちら](#)です。

【おわりに】

昨年の北海道に連続した台風上陸や、今年の九州や東北の大雨など極端な気象現象が続いています。現象のしくみは全く異なるものの、道東沿岸の海況でも昨年と今年では大きく様子が異なっており、温暖化がその一因と考えられます。これからの資源動向を知るためには、このような極端な環境変動に水産資源がどのような反応を示すのか、注意深く調査を継続実施し、明らかにしていく必要があります。今年の夏から秋への漁海況に注目しています。

（北海道立総合研究機構 釧路水産試験場
調査研究部 中多章文）

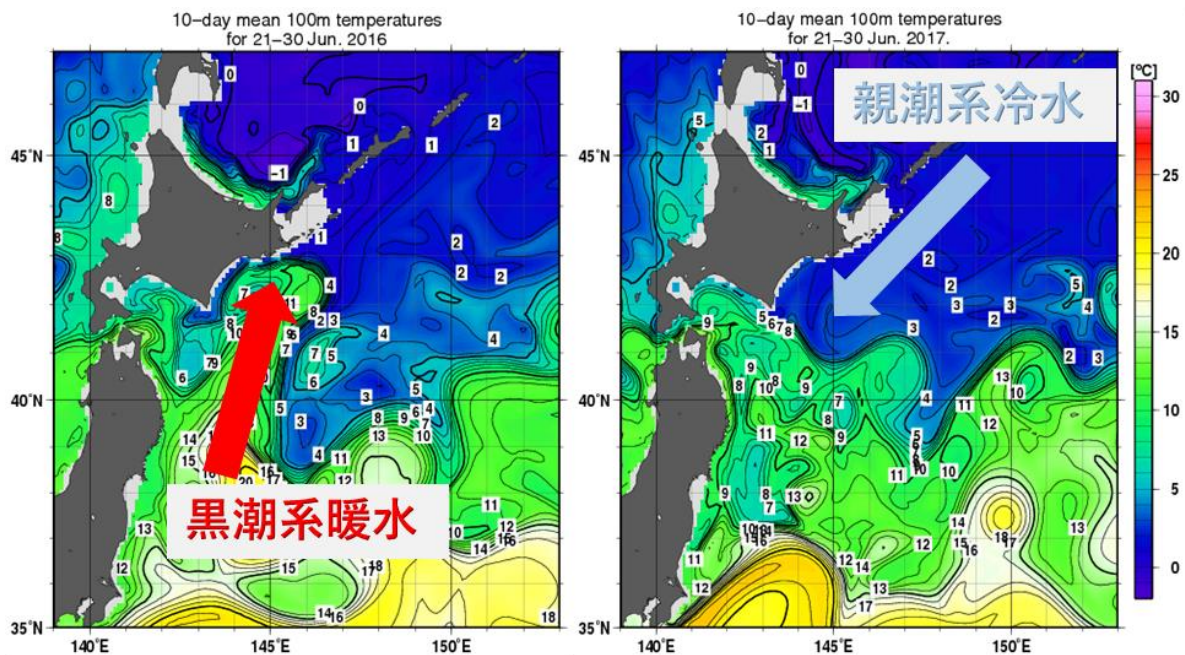


図3 旬平均の100m 深水温分布図（左：2016年6月下旬 右：2017年）
（気象庁ホームページ：海の健康診断より引用改変）